

タイトル	共同実施活動 オランダの JI ファンドの経験 Activities implemented jointly - the experience of the Netherlands' JI Fund																				
主催	Netherlands																				
日時	6月21日(月) 1:00 p.m. - 3:00 p.m.																				
主要討論者	Maarten Bussink, オランダ外務省 (Netherlands' Ministry of Foreign Affairs)																				
傍聴者	約 30 名 (各国政府関係者他)																				
目的	オランダの共同実施活動(AIJ)の経験の紹介																				
発表の概要	<p>オランダの共同実施活動(AIJ)に関する取り組み及び資金援助の実施は、1996年～2004年までを期間として、持続可能な開発(貧困削減)及び、GHG排出抑制を目的としてスタートした。</p> <p>プロジェクトの流れ</p> <pre> graph TD A[74 プロジェクト(候補審査/Idea screened)] -- 6ヶ月間 --> B[36 プロジェクト(提案の査定/Proposal assessed)] B -- 18ヶ月間 --> C[24 プロジェクト(調査研究/Study started)] C -- 30ヶ月間 --> D[19 プロジェクト(実施/Implementation)] D -- 48ヶ月間 --> E[完了 開始から102ヶ月(8年半)後に19プロジェクト完了へ(2004年)] </pre> <p>完了 開始から 102 ヶ月 (8 年半) 後に 19 プロジェクト完了へ (2004 年)</p> <table border="1" data-bbox="497 1615 850 1861"> <thead> <tr> <th colspan="2">プロジェクト分野別割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>風力発電</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>バイオマス</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>小規模水力発電</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>47%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="943 1615 1295 1861"> <thead> <tr> <th colspan="2">プロジェクト地域別割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ラテンアメリカ</td> <td>47%</td> </tr> <tr> <td>アジア太平洋</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>アフリカ</td> <td>21%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>9%</td> </tr> </tbody> </table>	プロジェクト分野別割合		風力発電	25%	バイオマス	23%	小規模水力発電	5%	その他	47%	プロジェクト地域別割合		ラテンアメリカ	47%	アジア太平洋	23%	アフリカ	21%	その他	9%
プロジェクト分野別割合																					
風力発電	25%																				
バイオマス	23%																				
小規模水力発電	5%																				
その他	47%																				
プロジェクト地域別割合																					
ラテンアメリカ	47%																				
アジア太平洋	23%																				
アフリカ	21%																				
その他	9%																				

	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><u>Input</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2,200 万ユーロ ・15 人の常勤スタッフ </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><u>Output</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・600 万 t の CO2 排出削減 ・8,000 万ユーロの持続的な投資 </div> </div> <p>・Bussink 氏は、このプロジェクトが 600 万 tCO₂ の削減を達成したことを強調し、ベースライン・排出モニタリングの双方が CDM ガイドラインに関わることに言及し、この結果は UNFCCC に報告されるとのこと。</p> <p>・また、1996 年に JI が新たな分野として生まれたこと、人的資源の不足、開発援助の考え方を変更する必要があったことを、オランダ JI 資金のプロジェクト開始が遅れた理由として挙げた。</p> <p>・スタート時に具体的な提案書を作成できるパートナー探し、アセス計画の作成、プロジェクト実施中における相互の信頼関係の持続等、様々な段階でのプロジェクト実行の際の障害を紹介。</p> <p>・民間が助成金に関心を寄せているのに対し、公的機関は手続制度に関心を寄せていることが浮き彫りとなった。</p> <p>・今回のオランダの教訓 (lessons learned) として、技術移転と持続可能な開発の成功については、民間の関与が鍵となったことを指摘。また、相互の信頼は、プロジェクトを進める際に最も重要な要素であったと述べた。</p>
所感	<p>オランダの 8 年間にわたる取り組みについての問題点や成果などについての具体的な発表は大変興味深く、各国関係者も関心を寄せていた。特に、プライベート・セクター (民間) と公的機関 (政府) との信頼関係の重要性は、改めて認識させられた。</p>
資料	<p>PPT 資料: (http://unfccc.int/sessions/sb20/se_table.html)</p> <p>Minbuza: www.minbuza.nl</p>

文責: 家本 了誌